

患者とともに行うストーマサイトマーキングの実施～患者の要望に沿った位置決定の効果の研究について

この度海老名総合病院看護部では入院・通院されていた患者さんの診療情報を用いた研究を実施させていただきます。

この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。またプライバシー保護について法令等を遵守し研究を行わせて頂きます。

試料・情報について、本研究への利用をのぞまれない場合は以下担当医師にご連絡ください。

1. 研究目的

今回患者の要望に沿ったストーマサイトマーキングを適切に行う事により退院後も患者の望む行動が行えているかを明らかにしたい。

人工肛門(以下、ストーマ)の位置造設は、一般的にクリーブランドクリニックに基づいて決定している。装具の安定性・セルフケアの確立・合併症予防・ストーマの受容のため、ストーマが患者にとって適した位置に造設される事で、ストーマのセルフケアの確立や日常生活への復帰が容易となると言われているからである。実際に看護師にストーマサイトマーキングの指導を行う際にもクリーブランドクリニックを用いている。

A病棟には32名の看護師が在籍しており、そのうち1回450点(2/22時点)加算を取る事ができるストーマリハビリテーション受講者は6人(今年度2名追加)在籍している。ストーマリハビリテーション受講者以外でもストーマサイトマーキングの指導を受け、実際に患者にマーキングを行っている。A病棟では普段ストーマサイトマーキングを行う際に、患者と一緒に(1)装具装着に適した条件が得られる②患者が自己管理できる(3)合併症が起これにくい(4)患者個々の社会的あるいは家庭的条件に適した位置⑤その他衣服との関係など、これらの留意点を軸にマーキングを行っている。

このことから、看護師が留意点を意識して患者にストーマサイトマーキングを行う事によって、ストーマ造設後も患者自身が望む活動に繋がっているのではないかと考えた。しかしストーマ造設による患者のQOL低下についての文献や先行研究は多数あるが、ストーマサイトマーキングが患者のQOLにどう影響したかを述べている文献はなかった。片岡らは2)、QOLが低下すると不安状態、抑うつ傾向が強くなる傾向があると述べているため、ストーマ造設後も患者自身が望む活動を行う事はQOLの低下を防ぐためにも重要であり、研究を行う意義があると考えた。

2. 研究方法

研究対象

(1) 関東近郊500床未満の急性期一般病床外科病棟でストーマ造設した自己管理可能な患者(ウロストミーは除外)。

(2) 術前と術後一貫してPS0-I0訂CS0-1(患者記載できない場合は口頭か家族が回答)。患者のニーズが確認できなかった場合は除外。ストーマ永久造設症例がメインだが、n数確保のため一時的造設症例も含める。

(3) 師からストーマサイトマーキングの指示があり、看護師がマーキングを行った場合とする。

- 1) 実施期間 2024年6月～2028年3月31日
- 2) 研究方法
- 3) 研究成果の公表

3. 試料・情報

4. 外部への試料・情報の提供

個人が特定できる情報(氏名、住所、生年月日など)は除外した形でデータ集積を行います。

データの紛失・改ざん・漏洩などを防ぐためデータベースへのアクセスはID・パスワード等、適切に管理しています。

収集した匿名化データは海外含む学術研究施設に提供されますが、診療の質評価および研究目的以外には使用致しません。研究成果は個人が特定できないような形で発表を行います。

5. 本研究責任者およびお問合せ先

本研究にご質問がありましたら下記の連絡先までお問合せください。お申し出によりそれ以降の分析から個人データを除外することは可能ですが、お申し出時点より前の分析および発表済の研究結果からの削除は出来ない場合がありますのでご承知くださいますようお願い致します。

施設名 : 海老名総合病院

住所 : 神奈川県海老名市中央4丁目16-1

電話 : 046-233-1311

研究責任者: 看護部 大澤 まりな